

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 6 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人(社)聖恵会		
事業所名	グループホーム 安居		
所在地	福岡県古賀市鹿部485番地-1 〒811-3105 (電話) 092-942-6363		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年8月5日	評価確定日	平成21年9月1日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 22 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 14 人	非常勤 6 人 常勤換算 16.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋 造り		
	1 階建ての ~		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 50,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

### (4) 利用者の概要(7月22日現在)

登録人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.9 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡和白病院、宗像水光会総合病院、福岡輝栄会病院、福岡聖恵病院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い国道に面した場所に位置するホームであるが、国道とホームの間に多くの木々があり、敷地内は閑静な雰囲気醸し出されている。ホームの周囲に母体の医療機関や介護サービス事業所が隣接しており、医療・介護面のバックアップ体制は、利用者や家族に安心感を与えている。ホームの管理者をはじめ、全職員が利用者の生きてきた人生を尊重し、「家族のぬくもり・明日への希望・安全と安心」の理念のもとに、地域に根ざした第2の我が家・新しい家庭で利用者一人ひとりが生きることへの希望と喜びを感じる、穏やかでさりげない支援が行われている。利用者が近隣の保育園児とともに芋掘りを楽しんだり、地域の中学生や地域ボランティアの方々が多数訪れるなど、地域との交流が積極的に図られている。開設して5年目を迎え、今後ますます地域の認知症ケアの推進役となっていくことが期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員へは全体カンファレンス時に改善についての協議を行うなどの取組みがある。この過程で、職員が外部研修に多数参加し、同業者との交流を通じて、職員一人ひとりのモチベーションが上がり、自己を高めるなどの具体的な成果が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審にあたり、今回初めて職員全体で評価項目の内容を検討し、日々の業務の気づきや職員全体の意識向上に繋げるなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 区長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者などの参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況などについて報告が行われ、ホームの積極的な取組みについて区長や民生委員から行政窓口へ直接提言するなど、運営推進会議を活かした取組みがある。区より依頼の認知症介護予防教室を開催したり、市のグループホームネットワークを立ち上げるなど、行政と連携を図りながら質の向上に向けて取り組んでいる。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 面会時の声かけや運営推進会議時、ホーム通信などを通じて、利用者の日常の様子や行事参加の様子などを報告している。連絡ノートを活用し、利用者の健康状態や暮らしぶりについて個別に伝えている。ホーム行事の納涼祭に多数の家族が参加し、懇親会にて家族から防災や介護報酬について質問がみられるなど、家族との連携が図られている。運営推進会議やホーム行事への家族参加を通じて、要望などを表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 近隣保育園児と利用者が芋掘りを一緒に楽しんだり、地域ボランティアによる歌や詩吟の披露、近隣中学生との交流、地域のふれあいサロンへの参加や運動会への参加の依頼などを通じて、地域との交流の機会を積極的に捉え、地域とのかかわりを意識した取組みがある。日々の散歩時の挨拶や近隣の方から野菜の差し入れを頂くなど、自然な形で地域交流への取組みがみられる。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「家族のぬくもり・明日への希望・安全と安心」の ホームの理念をもとに、地域に根ざした第2の我が 家、新たな家族づくりを目指し、日々の業務に積極的 に取り組んでいる。地域と利用者とのかかわりを重視 しながら家庭的な雰囲気の中で、その人らしさを大 切に常に寄り添ったケアの提供に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビング内に掲示し、自然に目に入る工夫が ある。毎朝、申し送り時に唱和したり、就業前や業務 の合間に常に理念に立ち戻り、確認している。日々の 業務の中で職員間で理念と照らし合わせて検討したり、 月1回の全体カンファレンスを通して、理念に基づ いたケアの内容について協議するなど、理念の実践 に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	近隣保育園児と利用者が芋掘りを一緒に楽しんだ り、地域ボランティアによる歌や詩吟の披露や近隣中 学生との交流、地域のふれあいサロンへの参加や運動 会への参加の検討などを通じて、地域との交流の機 会を積極的に捉え、地域とのかかわりを意識した取 組みがある。近隣の方から野菜の差し入れを頂くな ど、自然な形で地域交流への取り組みもみられる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組ん でいる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へは全体カンファレンス時に改善につ いての協議を行うなどの取り組みがある。この過程 で、職員が外部研修に多数参加し、職員のモチベー ションが上がるなどの具体的な成果が見られる。今 回の受審にあたり、職員全体で評価項目の内容を検 討し、職員全体の意識向上に繋げるなどの取組み がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者などの参加のもと2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況や年間の職員教育などについて報告が行われている。質の向上に向けたホームの積極的な取り組みについて区長や民生委員から行政の窓口へ直接提言するなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当職員や地域包括支援センター職員の参加がみられる。運営推進会議を通じての連携や行政窓口へ赴いての相談、電話連絡など、行政との連携への取り組みがある。地域活動の一環として区より依頼の認知症介護予防教室を開催したり、市のグループホームネットワークを立ち上げるなど、行政と連携を図りながら質の向上に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県のグループホーム協議会の外部研修の参加を通じて、全体カンファレンスにて毎月勉強会を行ったり、受講報告会を行うなど、成年後見制度や日常生活自立支援事業について職員全体で理解を深める取り組みがある。制度に関する資料を準備し、契約時や必要に応じて利用者・家族に制度の概要や利用手順についての説明を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の声かけや運営推進会議時、ホーム通信などを通じて、利用者の日常の様子や外出・行事参加の様子などを報告している。連絡ノートを活用し、利用者の健康状態や暮らしぶりについて個別に伝えている。ホーム行事に多数の家族が参加し、懇親会にて家族から災害時の対応や介護報酬について質問がみられるなど、家族との連携が密に行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やホーム行事への家族参加を通じて、家族との交流を深めながら要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の思いや意向の把握に努めている。出された意見は、内容に応じてその場での回答や、全体カンファレンスなどにて職員間で話し合いケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行ってない。定期的に管理者が職員一人ひとりの意見を傾聴し、職員が働きやすい環境を整え離職を抑えるように配慮している。日頃からユニット間の交流を深め、利用者との馴染みの関係が保たれる様な体制を整えている。新しい職員が入職した際は、馴染みの職員が見守りながら指導にあたるなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。家庭菜園が得意な職員にホーム菜園の手入れを行ってもらい、様々な趣味や得意分野をもつ職員が、他の職員に提示しながらもに行うなど、職員の長所を活かした工夫がある。利用者へのかかわりを主に担当職員に行ってもらうなど、職員一人ひとりの能力を育てながらやりがいを持って勤務していけるように支援している。外部研修や資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務にて人権尊重や高齢者の尊厳についてその都度、管理者が指導したり、身体拘束や人権問題をテーマとした勉強会を行うなど、全職員の人権意識を喚起するような取組みがある。人権についての法人内の研修や外部研修に職員が参加し、受講報告会にて職員間で人権教育・啓発活動について学ぶ取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修への参加を行い、可能な限り参加の機会を確保するなどの支援体制がある。全体カンファレンスにて受講報告会や事例検討を行い、知識の共有に努めるなどの取組みがある。内部研修については年間の学習計画を立て、毎月勉強会を行い職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会の研修を通じて、他事業者との職員間の意見交換や交流が行われ、職員全体のスキルアップが図られるなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。市のグループホームネットワーク合同研修会に職員が参加し、他事業所への見学や認知症ケアの研修・グループ討議・交流を深め、日々の業務に活かすなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の病棟やショートステイ、通所リハビリなど利用中の利用者が、入居前にホーム見学や体験利用などを行い、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、状況に応じて家族への面会を願い、利用者へは頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が家族の一員であることを常に認識し、生き方や生活全般の知恵を教えてもらうなど、常に利用者から学ぼうとする取組みがある。利用者が自然と職員へねぎらいや感謝の言葉をかけたり、職員は、常にあたたかい雰囲気を保ちながら笑いのある日々を過ごせるケアの提供に努め、お互いを尊重し支えあいながら共にすごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時の面談や家族の面会時、運営推進会議時などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。日常のかかわりの中で利用者の動作や表情などから思いや意向を汲み取り、利用者・家族・担当職員・計画作成担当者にて目標やケアの具体的な内容について協議・検討し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて利用者・家族・担当職員・計画作成担当者にて本人・家族の意向及びケアの内容について話し合い、担当職員と計画作成担当者が介護計画書を作成する取組みがある。日常のかかわりの中で、職員全体で毎日ケアチェックを行い、3ヶ月毎に担当職員と計画作成担当者にて利用者・家族の意向や満足度評価を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	状況の変化時や家族の希望時、または3ヵ月毎に利 用者・家族・担当職員・計画作成担当者にてカンファ レンスを開催し、内容の評価・検討及び再作成が行わ れている。全職員による月に1度の全体カンファレンス やミニカンファレンスにて、利用者や家族の意向の確 認が行われ、ケアについての手順や変更内容につい ての見直し、再作成が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関への通院介 助や連携支援、入院先の主治医・医療関係者との連 携、毎月法人内での話話や地域のふれあいサロンへ の利用支援、家族との墓参りへの外出支援など、利 用者・家族の状況に応じて柔軟に対応している。地域 の介護予防教室にて認知症についての勉強会を開 催するなど、地域の要望に応じて支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医との連携により、ホームにて通院介 助や看護師による利用者の状態把握及び状態に応じ て協力病院への受診、訪問診療の支援がある。かか りつけ医への受診については、家族対応が困難の 際、ホームにて支援するなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りについての対応を説明し、利用者の 意思をふまえた上で、家族などの同意を得ている。 ホームの方針として可能な限りホームで過ごしてもら うことを基本としている。状況の変化に伴い、その都度主治 医から直接家族に利用者の状態について説明し、本 人・家族の意思を尊重しながら家族・主治医・事業所 間で協議し、方針を共有していく取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、定期的に接遇研修に参加したり、日々のケア やカンファレンス時に管理者が指導し、職員の意識の 向上を図る取り組みがある。タイミングを見計らっての 利用者一人ひとりに応じたさりげない声かけや視線を 合わせて笑顔で傾聴するなど、利用者の自尊心やプ ライバシーに配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し決して無理強 いせず、様子を見ながら声かけを行っている。利用者 の希望や状況に応じて、食事や入浴のタイミング、食 事のペースなど、利用者一人ひとりのペースを尊重し 支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人内の管理栄養士が栄養バランスを考慮したメ ニューを作成し、すべてホーム内で調理し提供してい る。家庭菜園で収穫した芋やつわの皮むき、下膳、食 器洗いなど、利用者一人ひとりができる範囲で協力し ながら行うなどの取り組みがある。利用者と職員が一 緒にテーブルを囲み、和やかな雰囲気の中でゆた りと食事を楽しめるような取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	隔日の入浴が基本であるが、毎日の入浴も可能で 3人の利用者が毎日の入浴を楽しまれている。午前 中と午後にお湯を入れ替え、入浴の回数や順番な ど、利用者の体調に配慮しながら、利用者一人ひと りの希望に応じて柔軟に対応している。ひのき風呂で外 の樹木を眺めながら、利用者一人ひとりがくつろぎな がら入浴を楽しまれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	毎日のモップかけや雑巾作り、洗濯物干しなど、利 用者の出来ることや生活歴などを把握し、利用者一 人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。利用 者の趣味を活かし、ホーム内の生花を生けたり、切り 絵などの手作りの品々を作ったり、裁縫、囲碁、将棋 など、日常のかかわりの中で利用者の楽しみごとや 得意なことを把握した上での働きかけがみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や温泉、ドライブ、外食、買い物など、利用者の 状況に応じてできるだけ戸外に出かける支援が行わ れている。法人内での毎月の法話やリハビリテーショ ンへの毎日の利用、ピアノ・バイオリンコンサートへの 外出、地域のふれあいサロンへの外出、ご家族との 墓参りや行きつけの美容室への外出支援など、利用 者の希望に応じて積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	勝手口などは施錠しているが、玄関(パネルロック) や中庭、利用者の居室の開き戸は開錠されており、 自由に出入りできる。全職員は施錠することの弊害を 認識しており、利用者の様子をきめ細かく観察、見守 りながら、さりげなく声をかけるなど、利用者の安全な 暮らしを支える対応がある。家族の面会時などで施錠 についての説明は行われている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	法人内の施設と合同で年に2回の消防署の指導に よる避難訓練や夜間を想定した自主訓練を実施し、 避難場所や避難経路、消火器の使い方などの確認 が行われている。緊急時のマニュアルを作成し、近隣 の消防署や法人内の施設・事業所との連携、協力体 制がみられる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	管理栄養士がメニューを作成し、栄養バランスを考慮 した食事を提供している。利用者毎に毎回の食事を 記録し、食事摂取量が少ない利用者へは、栄養補 助食品を使用するなど、栄養摂取への支援がある。1 日の水分量の記録を行い、1日1000cc～1300ccを目 途に水分摂取量が少ない利用者へは、頻繁な声かけ を行うなど、水分確保への支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木目調で天井が高く、和風で明るく開放的な空間となっている。玄関やリビングには、利用者が生けた生花や昔風の家具が施され、利用者の手作りの品々や行事のスナップ写真が飾られ、家庭的な雰囲気を醸し出している。リビングからホームの中庭の花々が眺められ、落ち着いた雰囲気の中で居心地良く過ごしている様子が見受けられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の居室には、木目調のベッドやクローゼットなどが備えられ、タンスやテレビ、冷蔵庫、調度品、家族の写真などの馴染みの物や使い慣れた物が持ち込まれており、安心して居心地良く過ごせるための居室作りの工夫がみられる。フローリングの居室にマットやカーペットを敷くなど、利用者の身体状況に応じて安全で使いやすいように配慮している。		

32 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号